

(b)ねぐらの選択肢の減少

B、C及びE洞窟の3か所のねぐらの消失によって、小型コウモリ類にとってねぐらの多様性が低下し、選択肢が減るといふ変化がある。

(c)石垣島における生息環境の変化に伴う生息状況の変化

【ヤエヤマコキクガシラコウモリ】

土地の改変に伴いヤエヤマコキクガシラコウモリにとっては、表-6.12.1.2(14)に示すとおり、B、C及びE洞窟が利用できなくなる。B洞窟は、通年でみると平均個体数は約4個体、確認頻度は約70%であったが、石垣島全体の個体群の中での個体数の割合は1%に満たなかった(図-6.12.1.2(18))。C及びE洞窟は通年にわたって平均約120個体、約190個体の利用が確認され、確認頻度は約100%であり、石垣島全体の個体群の中での個体数の割合はそれぞれ約3%、約5%であった。これらのことから、石垣島のヤエヤマコキクガシラコウモリの個体群にとって、平均個体数や確認頻度及び石垣島内の個体群の中での個体数割合という面からみて、B洞窟は比較的重要性は低いと考えられる。しかし、C及びE洞窟は確認頻度が高いことと、個体数割合という面から考えて、石垣島のヤエヤマコキクガシラコウモリの個体群にとって、C及びE洞窟が利用できなくなることにより、生息状況に変化があると予測される。

表-6.12.1.2(14) ヤエヤマコキクガシラコウモリの生息環境の変化

場所	利用状況	生息環境の変化
B洞窟 C洞窟 E洞窟	通年 - 通年 冬期の休眠 通年 冬期の休眠	ねぐらとしての利用ができなくなる
A洞窟 D洞窟	通年 出産・哺育 通年 冬期の休眠 通年 冬期の休眠	洞口周辺の樹林は改変されない